

閉じた母校 にぎわい再び

八頭 中高生ら夏祭り企画

昨春閉校した八頭町の旧安部小学校が、夏休みの夕方のひととき、納涼祭でにぎわった。企画したのは、安部小を卒業した中高生たちでつくる「安部小プロジェクト」のメンバーたち。毎月、校舎の掃除をしながら、安部地区を盛り上げる方法を考えてきた。

旧安部小の体育館を会場に、12日に開かれた「第1回安部っ子夏祭り」。「八東平成太鼓」「上日下部皿回し」など地域の芸能や、八頭高の書道パフォーマンスなどのステージがあり、かき氷や焼きそばの屋台を地区の各集落が出店した。最後は体育館のピアノで奏でる伴奏で皆で校歌斉唱。約400人が来場した。



地域の人たちでにぎわった安部っ子夏祭り

きっかけは昨夏。閉校から5カ月ほどが過ぎ、「校庭が草ぼうぼうだったんです」とプロジェクト代表で青翔開智高2年の内田奏杜さん。近所の2人で草取りをするうち、校舎の中もきれいにしたくなった。役場の許可をもらい、10月から月に1回、中高生数人で校舎内の掃除を開始。年明け頃からは、中高生が楽しめて盛り上がる祭りを開きたい、と計画を始めた。4月に正式にプロジェクトを立ち上げ、中高生ら約20人のメンバーが集った。使われなくなった校舎は、ほこりとカメムシだらけだった。「あんなにきれいだったのに、人がいないとさみしいなと思った」と八頭高1年の木原碧さん。



地域交流の場 思い形に

「小学校があると、運動会や総合の時間、日常生活の中とかで地域の人とかかわりがあった。でも、それが閉校してから一気に雰囲気が変わってしまった」と内田さん。閉校で地域の交流が少なくなる危機感を感じていた。

納涼祭は、閉校前の一昨年夏にも大人たちが企画して盛会だった。内田さんらはこの時のことをヒントに、助言をもらいながら、団体の出演や屋台の出店を交渉して依頼。資金に、町の地域づくり事業の補助金などを活用した。

「うれしいですね」と一昨年の納涼祭で中心になっていた卒業生の木原康志さん（54）。企画を聞いた時はびっくりした。「自分たち



上：夏祭りの朝、準備のために集まった中高生のメンバーら 下：ステージで、地域芸能などの熱演が披露された＝12日、八頭町安井宿

は青年団の活動が土台にあった。心配だったけど、すごい」。安部小の元同窓会長の藤田洋太郎さん（82）は「若い人たちが、全く組織のないところから、こんな催しをしてくれるなんて予想していなかった。ありがたい」。

鳥取東高1年の樋引菜々穂さんは「部活とかあるのが悩んだけど、小学校時代の友達とまた話せるのはいいなと思って参加した。中高生のノリで始めたけど、町とかいろんなところから協力してもらって、やりがいあるなと思った。ほんとに楽しかった」。

内田さんは、校歌斉唱のフィナーレ後もピアノを弾き続け、優しい音で来場者を見送った。「集落には小さい頃からお世話になっているお年寄りが多くて、いつも心配して応援してくれました。たくさん人の力があってできた祭りで嬉しい」。今回、夏祭りを開催して「次に挑戦したいことが皆の中で見えてきた」と語る内田さん。校庭では今、八東保育所の建設工事が進んでいる。「校舎と新しくできる保育所を拠点に、若者が集い色んな挑戦が生まれる仕掛けを創りたい。若者が少ない町なので、これからが本番だ」と話してくれた。

（斉藤智子）